

令和7年度 第1回学識者懇談会 議事概要

日時：令和7年10月10日（金） 13:30～14:40

場所：遠賀川河川事務所 会議室（Web会議）

1. 議事

（1）総合水系環境整備事業の事業評価

○事務局より「遠賀川総合水系環境整備事業」（資料2）を説明

（審議結果）

- ・原案どおり、引き続き事業継続ということで了承。

（事業を進めるにあたっての留意事項に関する意見等）

- ・流域全体の河川環境を踏まえた取組みが重要であり、流域治水を踏まえて流域全体の環境も考えていかなければならない。エコロジカルネットワークは今後の河川環境整備の見本となるのではないか。自然環境の変化によって生態系がどのように変化するかモニタリングしていく必要がある。また、かわまちづくりについても、まちづくりの活性化や子どもが直接川に触れる機会の増加等についてもモニタリング結果を公表し、将来に繋がる事業として継続してほしい。
- ・遠賀川流域での取組みについての外部発信が不足していると感じる。エコロジカルネットワーク等、流域全体でよい取組みを実施しているので、それらを如何に発信していくかが重要である。
- ・QRコードを活用し、動画配信サイトやSNS等によるWEB上での情報提供に取り組んでいることは把握しているが、より多くの世代に情報を発信するためには、WEB上での情報提供だけではなく流域内の図書館や博物館、資料館等で従来型の情報発信も継続してほしい。
- ・遠賀川の中心地点として、飯塚地区かわまちづくりに期待している。芳雄橋自体は綺麗であるが、河川敷からのアクセスには植生繁茂といった課題もあるため、憩いの会の議論を通じて、上手く整備されればよいと思う。過去に行つた商店街の方々との交流では活発な意見交換が成され、若い人たちの間でもキッチンカーの活用といった楽しみ方が定着しつつある。将来的には、熊本県の白川で開催されている白川夜市のようなイベントを遠賀川の中心飯塚で開催できるとよいのではないか。
- ・かわまちづくりでは整備の範囲が決まっており、その範囲内で計画をしっかりと実践することは重要であるが、その少し上流側にも範囲を広げる視点を持ってほしい。例えば、対象範囲の上流側には川の蛇行があり、良好な瀬渦が形成されやすい。将来のネイチャーポジティブ的取組みを意識しながら、かわまちづくりを実施できればよいと思う。
- ・ヒアリやナガエツルノゲイトウ、クビアカツヤカミキリといった外来種の課題には、予防的に対策に取り組む必要がある。他のところで広がる前に先手を打

っていってほしい。

- ・現在のかわまちづくり計画は芳雄橋が中心となっているが、昔はもう少し上流側の嘉穂劇場周辺の穂波川河川敷で商店街と川を繋ぐイベントが実施されていた。こうした拠点や資源、周辺の住民も巻き込んでいけるよう、河川事務所からも（飯塚市に）働きかけてほしい。
- ・設定されている事業費に対し、昨今の人件費や材料費が高騰した場合でも計画通りの事業遂行は可能なのか。
⇒コスト縮減等を図りながら、まずは設定した事業費内での実施を第一に取組む。但し、物価上昇影響により事業継続が困難となる事象等が生じた場合には、事業費増額のご提案を再度学識者懇談会に諮らせていただき、事業が適切に運用できるよう取り組んでいく。
- ・流域として、大変よい取組みをしていると思うので是非継続してほしい。これまでの取組みも含めて、対外的な発信は不可欠である。飯塚かわまちづくりの計画もよいものになっているので、今後ディテールを詰めていってほしい。

（2）遠賀川における最近の話題について

○事務局より「令和7年8月豪雨の降雨・水位の状況」「河川整備計画変更に向けた検討状況」を説明

（主な意見等）

- ・雨の降り方により、どの地点が危険になるかを把握できるようになれば、今後の対応に活かせると思う。
- ・令和7年8月9日からの豪雨では内水氾濫は無かったか。今回の実績を踏まえて雨の降り方による危険な箇所を把握し、事務所として発信していくとよい。

以上